

この報道用資料は 2005 年 8 月 3 日にドイツで発表された資料の和訳版です。

2005 年 8 月 5 日

BASF

2005 年第 2 四半期(4～6 月)業績を発表

ハイライト

- 売上高は大幅増加、前年同期比で 14%増の 106 億ユーロ
- 特別項目を除く EBIT(利息・税金控除前利益)は 31%増の 17 億ユーロ
- 中国、南京の統合石油化学プラントの操業を開始
- 北米の利益は大幅増加
- 2005 年通年の見通しは、売上高、利益ともに好調だった 2004 年をさらに上回る見込み

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)はこのほど、2005年第2四半期の業績を発表しました。第2四半期も引き続き業績は好調で、利益が大幅に増加しました。売上高は前年同期比14%増の106億ユーロで、特別項目を除く営業利益(EBIT)は同31%増の17億ユーロとなりました。2005年上半期の売上高合計は207億ユーロと、前年同期比で13%近い増収でした。また、上半期の特別項目を除くEBITは前年同期比32%増の32億ユーロでした。

増収の主な要因は、早急に必要であった販売価格の値上げによるものです。原材料費は不安定で、継続的に上昇したものの、BASFは必要な水準まで段階的に利益率を上げることに成功しました。販売高は第2四半期に3%という好調な増加をみせ、上半期でも2%増加しました。

2005年通年の見通し:2004年を上回る好業績となる見込み

ハンブレヒト会長は、2005年通年では、生産量の成長は約3%と、過去最高の業績だった2004年を若干下回る見通しですが、下半期も、特に北米とアジアでの成長を原動力に、化学業界は成長の軌道を歩み続けると予測します。ハンブレヒト会長は次のように話しました。

「今後数カ月はチャンスとリスクの両方に直面します。BASFは、そうしたチャンスを活かしリスクを適切に判断します。主要な設備投資のプロジェクトを予定通り完了し、事業の再構築を今後も成功させ、そしてさらなるコスト削減を達成します。それと同時に、『ザ・ケミカル・カンパニー』としての市場ポジションをいっそう拡大するために取り組んでまいります」。

ハンブレヒト会長は、全体としては将来の見通しに自信を持っており、BASFの2005年通年の業績見通しを上方修正しました。見通しについては次のように述べています。

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒102-8570
東京都千代田区紀尾井町 3-3
TEL: 03-3238-2341
FAX: 03-3238-2514
URL:<http://www.basf-japan.co.jp>

「2004年の優れた業績と比較しても、2005年の通年での売上高は大幅に増加、特別項目を除くEBITも増加すると予測しています」。

この見通しは、テロ攻撃や原材料費の劇的な上昇、通貨の変動など、予期しない事態によって影響を被らないことを前提としています。

売上高と利益

最高財務責任者のカート・ボックは、2005年上半期のEBITおよび税引き前利益が、2003年、2002年の通年業績よりも高かったことを指摘し、次のように述べています。

「2005年第2四半期は化学品事業での販売価格引き上げを実施し、また、原油高も売上増加に寄与しました。2004年第2四半期の好業績と比較しても、BASFの大半の事業部門において販売高が若干増加しました」。

7,000万ユーロの特別項目を計上した第2四半期のEBITは16億ユーロでした。特別項目は主に、事業再建策に伴うものです。

純利益は税引き前利益よりも増加幅が低くなりました。これは、石油価格と密接な関係がある石油精製税によるものです。第2四半期の石油精製税は2倍以上の2億6,700万ユーロに増加しました。これにより、実質税率は2004年第2四半期と同様におよそ34%でした。

株式買い戻しによる発行済み株式減少の効果で、1株あたり利益は14%増の1.48ユーロでした。

全地域でプロジェクトが順調に進捗

BASFは、すべての地域において事業再編とポートフォリオの最適化を継続しています。

2005年第2四半期、欧州地域の売上高は62億ユーロでした(11%増)。特別項目を除くEBIT(利息・税金控除前利益)は28%増加しました。

また、今期は、本社のルートヴィヒスハーフェン生産拠点で3年がかりのサイトプロジェクトが無事に完了し、生産性が大幅に向上しました。同時に、同拠点でのコストを年間4,800万ユーロ削減することが可能となります。

北米地域の売上高は17%強増加しました。これをドル建てで計算すると23%の増加となります。これは、販売価格の引き上げと、販売高の増加が、ともに寄与した結果です。特別項目を除くEBIT(利息・税金控除前利益)は65%増の3億5,100万ユーロとなり、北米事業の再建策が実を結んだことを証明しています。すでに予定を1年前倒して、2億5,000万ドルのコスト削減を実現しています。

南アメリカ、アフリカ、中東地域の売上高は4%減少しました。その要因として、南アメリカの一部で天候が極端に乾燥し、農業事業にとって好ましくない状況だったためです。特別項目を除くEBIT(利息・税金控除前利益)は73%減少しました。

アジア太平洋地域は引き続き急速に成長しています。売上高は24%増、特別項目を除くEBIT(利息・税金控除前利益)は34%増加しました。ハンブレヒト会長は次のように述べています。

「アジア太平洋地域では、今後も中国が成長の最も強力な原動力となります。中国への大規模な投資、特にパートナーである中国石油化工集団(SINOPEC)との南京のフェアブント拠点の操業開始により、成長の原動力をさらに強化します」。

南京では、BASFと中国石油化工集団(SINOPEC)が設立した合弁企業のBASF-YPC社に29億ドルを投じています。新拠点にはスチームクラッカーと9基の川下製品プラントがあり、高品質化学製品の年産能力は170万トンです。

BASFはこのほど、上海近郊の漕涇(カオジン)の統合拠点において、世界最大の PolyTHF®コンプレックスをフル稼働させます。PolyTHF®は、繊維産業がスパンデックス繊維を生産するのに欠かせない製品です。

BASFは、2010年までに、化学品事業の売上高と収益の20%をアジア太平洋地域から生み出す目標を掲げており、南京や漕涇の新プラントは、この戦略的な目標を実現する上で重要です。

■BASFについて

BASF(ビーエーエスエフ)は「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーです。BASFの製品群は、化学品、プラスチック、高機能製品、農薬、ファインケミカルから原油や天然ガスに至るまで多岐にわたります。あらゆる業界のパートナーカンパニーとして信頼されているBASFは、高度なソリューションと高品質な製品によって、顧客のさらなる成功をサポートしています。BASFでは、新技術の開発とそれらを使用することで、新たな市場を切り開いています。また、経済的な成功と環境保護、社会への責任を融合させることでより良い未来に貢献しています。2004年度は約8万2,000人の従業員を雇用し、370億ユーロ以上の売上高を計上しました。BASFの株式はフランクフルト(BAS)、ロンドン(BFA)、ニューヨーク(BF)、パリ(BA)、チューリッヒ(AN)の各株式市場において取引されています。同社のインターネットホームページアドレスは www.basf.com です。BASF ジャパン(株)のインターネットホームページのアドレスは www.basf-japan.co.jp です。

■本件についてのお問い合わせ先

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ 田所
Tel. 03-3238-2341

「前向きな記述」に関して

この文書には1995年のPrivate Securities Litigation Reform Actの意味する「前向きな記述」が含まれています。これらの記述は現在の期待、BASFの経営に対する評価および予測、現在入手可能な情報に基づいたものです。これらは将来の業績を保証するものではなく、予測が困難な一定のリスクと不確実性を含んでいるほか、将来のできごとに関する、正確とは限らない仮定に基づいています。BASFの実際の結果、業績、達成事項は、多くの要因によってこれらの記述が明示的または黙示的に示したものと大きく異なる場合があります。これらの要因に関する詳細な情報はBASFが証券取引委員会に提出した報告書(Form 20-F)に記載されています。この文書に記載された前向きな記述に関しては、BASFは更新の義務を負いません。